

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02504

研究課題名(和文) 現代英米児童文学におけるジェンダーを超える女性像を提示する作品における男性表象

研究課題名(英文) Representations of Masculinity in Works Featuring Female Characters Who Transcend Gender in Contemporary British and American Children's Literature

研究代表者

谷口 秀子 (Taniguchi, Hideko)

九州大学・言語文化研究院・特任研究者

研究者番号：70179092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：(1)主に1970年以降にイギリスとアメリカで創作されたジェンダーにとらわれない女性像を含む児童文学作品(アニメ、マンガなどを含む)を対象として、調査・分析を行い、データベースを作成した。(2)比較検討のため、ジェンダーにとらわれない女性像を含む日本の児童文学作品の調査・分析を行った。(3)上記にもとづき、ジェンダーにとらわれない女性像を提示する作品における女性のジェンダー越境やエンパワーメントと男性表象および男性性との関連について理論的考察を進めた。(4)研究成果の一部を、論文および国際学会や国内学会における口頭発表で発表した。(5)研究成果の一部を、市民向け講演などで社会に還元した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果の学術的意義は、ジェンダーにとらわれない女性像を描く現代児童文学作品における男性表象を分析することにより、これらの作品が女性登場人物をジェンダーから解放するにあたって、家父長制的なジェンダー構造やヘゲモニックな男性性とのように対峙し、男性像と男性性をどのように描き、男女の関係性をどのように提示しているかを明らかにすることができ、現代英米児童文学におけるジェンダーにとらわれない女性像の提示のメカニズムを明らかにすることを目指した点である。また、本研究の研究成果が、社会におけるジェンダー格差の解消とジェンダー平等を目指す社会的な啓発活動の一助になり得れば幸いである。

研究成果の概要(英文)：(1) I surveyed and analyzed British and American children's literature works (including anime, comics, etc.) created mainly since 1970 that feature female characters freed from conventional gender, and created a database of such works. (2) For comparative purposes, I surveyed and analyzed Japanese children's literature works featuring female characters who are liberated from conventional gender. (3) Based on the above, I conducted a theoretical study on the relationship between female gender transgression and empowerment and male representation and masculinity in works that depict female characters freed from conventional gender. (4) Some of the research results have been presented in articles, a research book, and oral presentations at domestic and international academic conferences. (5) Some of the research results have been shared with the society through public lectures.

研究分野：英米児童文学

キーワード：現代英米児童文学 ジェンダー 男性性 女性性 男性表象 フェミニズム ジェンダー越境 比較文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、研究論文「おとぎ話のジェンダーとフェミニズム」(2000)の執筆以来、現代児童文学作品(アニメ、マンガを含む)におけるジェンダーにとらわれない女性像の研究を続けてきたが、本研究課題「現代英米児童文学におけるジェンダーを超える女性像を提示する作品における男性表象」の着想に至ったのは、児童文学におけるジェンダーにとらわれない女性像に関する本研究代表者の研究の一角をなす、研究課題「現代英米児童文学におけるフェミニズム童話の意義」(基盤研究(C)2014年度~2016年度)の研究過程においてである。本研究代表者は、ジェンダーを排除し女性を中心に据えるフェミニズム童話というジャンルにおいて、ヒロインや女性性のすばらしさを強調するために、男性登場人物や男性性が矮小化される例があることに着目し、フェミニズム童話を始めとするジェンダーにとらわれない女性像を描く作品の本質を解明するためには、それらの作品における男性像や男性性に焦点を当てた体系的な研究が必要であると感じた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジェンダーにとらわれない女性像を描く現代英米児童文学作品における男性表象を分析することにより、これらの作品が女性登場人物をジェンダーから解放するにあたって、家父長制的なジェンダー構造やヘゲモニックな男性性とどのように対峙し、男性像と男性性をどのように描き、男女の関係性をどのように提示しているかを明らかにして、このような作品における女性登場人物のジェンダーからの解放のメカニズムの解明を目指すことである。

3. 研究の方法

研究課題の研究の遂行にあたり、主として、1970年以降にイギリスとアメリカで創作されたジェンダーにとらわれない女性像を提示する児童文学作品(アニメ、マンガなどを含む)を対象に、調査分析を行う。加えて、比較検討の対象として、ジェンダーにとらわれない女性像を描く日本の児童文学作品(アニメ、マンガなどを含む)における男性像の調査分析を行う。以上にもとづき、ジェンダーにとらわれない女性像を提示する作品における男性像の分類と分析を行い、これらの作品において、女性登場人物のジェンダーからの解放における男性登場人物と男性性の表象を分析し、それらが女性登場人物のジェンダーからの解放においてどのような意味を担っているかを可能な限り明らかにすることを目指す。

具体的な研究方法は、以下の通りである。

- (1) 主として、1970年以降にイギリスとアメリカで創作されたジェンダーにとらわれない女性像を提示する児童文学作品(アニメ、マンガなどを含む)の収集を行う。
- (2) 入手した作品に関して、ジェンダーの観点から、各作品におけるジェンダーにとらわれない女性登場人物、その女性登場人物に関わる男性像登場人物、およびジェンダーにとらわれない女性登場人物と男性登場人物の関係性を調査・分析し、データを集約する。

- (3) (2)と平行して、調査した作品の中から、特に重要と思われる作品を抽出する。
- (4) 比較検討の対象として、ジェンダーにとらわれない女性像を描く日本の児童文学作品（アニメ、マンガなどを含む）を収集し、調査・分析を行う。
- (5) 上記(1)～(4)と並行して、理論的考察のために、本研究の関連図書および文献の収集と分析を行う。収集する関連図書・文献の分野は主として以下の通りである。児童文学理論、ジェンダー論、女性学・フェミニズム関連、男性学、カルチュラル・スタディーズ、異性装・服飾関連、女性史、現代史、ジェンダー史、文化史、現代史、社会学、社会理論、ポップカルチャー関連など。
- (6) 上記(1)～(5)にもとづき、ジェンダーにとらわれない女性像を提示する作品における男性表象、および男性性の分類と分析を行う。
- (7) 研究目的に掲げた観点から、ジェンダーにとらわれない女性像を提示する作品における男性像と男性性の表象についての理論的考察を行う。これらの作品において男性登場人物や男性性が女性登場人物のジェンダーからの解放において何らかの影響を与えているかどうかを分析し、分析の結果、何らかの影響が見いだされる場合は、それが女性登場人物のジェンダーからの解放においてどのような意味を担っているかを明らかにすることを目指す。
- (8) 研究によって得られた成果を、段階的に、論文や口頭発表などにおいて公開する。
- (9) 研究成果の一部を、講演などを通して社会に還元する。

4. 研究成果

本研究課題に関して、概ね、上記の研究方法によって研究を行い、以下の研究成果を得た。

- (1) 主に1970年以降にイギリスとアメリカで発表されたジェンダーにとらわれない女性像を含む児童文学作品（アニメ、マンガなどを含む）の収集を行い、収集した作品に関して、ジェンダーの観点から、ジェンダーにとらわれない女性登場人物、その女性登場人物に関わる男性像登場人物、およびジェンダーにとらわれない女性登場人物と男性登場人物の関係性を調査・分析し、分類を行った。さらに、ポイントとなると思われる作品を抽出し、抽出した作品を中心に、さらなる分析とデータベース化を進めた。
- (2) 比較検討の対象として、ジェンダーにとらわれない女性像を含む日本の児童文学作品（アニメ、マンガなどを含む）の収集・調査・分析を行った。

(2)に関連した研究成果を含む主な研究成果：

論文「わたなべまさこ『おかあさま』における修辭的男装 ジェンダー越境とジェンダー・イメージ」(2019)：少女漫画『おかあさま』における男性自称詞「僕／ぼく」を用いる女性登場人物のジェンダー越境性と男性性との関連について論じた。

論文 “The Empowerment of the Heroine and the Silence of the Mother in *Spirited Away* and Other Miyazaki Films” (2023)：『千と千尋の神隠し』をはじめとする宮崎アニメにおけるジェンダーにとらわれないヒロインのエンパワーメントと母親の不在との関係を論じた。この論考は、ジェンダーにとらわれないヒロインと男性表象の関わりを研究する過程で、比較対象の意味から、ヒロインのジェンダー越境およびエンパワーメントと母親という女性表象との関わりについて考察したものである。なお、この論文では、ディズニー映画 *Cinderella*(2015) および、ディズニーアニメ *Moana* についても論じた。

研究発表 “Children’s Literature as Remedies for Children: The Child Misfit and the Adult Healer and Mentor in *The Witch of the West Is Dead*” (2017)

研究発表 “The Silent Mothers in *Spirited Away* and Other Miyazaki Films” (2019)

研究発表 “The Pedagogic Aspect of Girl-Power Anime: *HUGtto! Precure* as a Tool to Promote Gender Equality and Female Empowerment” (2021)

- (3) 本研究によって得られた研究成果の一部をもとに、ジェンダーにとらわれない女性像を提示する作品における女性のジェンダー越境やエンパワーメントと男性表象および男性性との関連についての論考を論文や学会発表などで公開した。

(3)に関連した研究成果を含む主な研究成果：

図書『グリム童話と表象文化 モティーフ・ジェンダー・ステレオタイプ』(共著) (2017)：(「おとぎ話とフェミニズム童話」の章を担当。)イギリスのフェミニズム童話 *The Clever Princess* について、この作品が、多くのフェミニズム童話と同様に、西洋の伝統的なおとぎ話に見られるジェンダーを転覆させ、ジェンダーにとらわれない女性像を提示していることを検証した上で、ヒロインや女性性の男性や男性性に対する優位性を表現する手段のひとつとして、男性登場人物が過度に周縁化され矮小化されて描かれているというある種のフェミニズム童話が内包する問題点を指摘した。

論文「*Petronella*における女性ヒーローと男性表象」(2021)：この作品における、因習的な女性像とは異なる主体的で行動力のある自立したヒロイン *Petronella* を高く評価し求婚する男性登場人物と作品に現れる男性性のあり方を、ジェンダーにとらわれないヒロイン *Petronella* との関係性において分析した。

研究発表「フェミニズム童話と『アリス』」(2018)

研究発表 “The Japanese Translations of Feminist Fairy Tales Written in English” (2018)

研究発表(基調講演)「「賢さ」か「冒険」か フェミニズム童話の翻訳をめぐって

て 』(2019)

研究発表「*Moana* における男性表象と「男性性」」(2023)

- (4) 国内外の学会において、研究成果の一部を含む内容の研究発表（国際学会6件、国内学会等2件）を行うとともに、学会において国内外の多くの研究者と研究に関する意見交換を行い、資料の収集も行った。また、上に記載した研究発表に加えて、以下の論考が、査読を経て、2023年8月開催の国際学会での発表が確定している：“Transition of Environmental Perspectives in Japanese Anime, Seen in Two Versions of *Humanoid Monster Bem* series (1968-1969, 2006) and *Pom Poko* (1994)”
- (5) 研究成果の一部を、自治体の市民向け講演や男女共同参画センターの広報誌での児童書の書評の執筆などを通して社会に還元した。

以上の研究活動により、現代英米児童文学におけるジェンダーに縛られない女性登場人物と彼女を取り巻く男性登場人物の描かれ方や男性表象や男性性の持つ意味について、多角的な観点からある程度明らかにすることができた。今後は、本研究課題の研究の遂行において得られた知見や研究成果を集約した上で、研究をさらに深化させ、体系化を進め、総括的な論考の構築を目指す予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)	4. 巻 2
2. 論文標題 The Empowerment of the Heroine and the Silence of the Mother in Spirited Away and Other Miyazaki Films (招待論文)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Language and Culture Studies	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口秀子	4. 巻 56
2. 論文標題 Petronella における女性ヒーローと男性表象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語科学	6. 最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4377787	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口秀子	4. 巻 18
2. 論文標題 わたなべまさこ『おかあさま』における修辭的男装—ジェンダー越境とジェンダー・イメージ— (招待論文)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語とジェンダー	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件／うち国際学会 6件）

1. 発表者名 谷口秀子
2. 発表標題 Moanaにおける男性表象と「男性性」
3. 学会等名 児童文学Challenged/Challenging Children 研究会 第5回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)
2. 発表標題 The Pedagogic Aspect of Girl-Power Anime: HUGtto! Precure as a Tool to Promote Gender Equality and Female Empowerment
3. 学会等名 The 25th Biennial Congress of The International Research Society for Children's Literature (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)
2. 発表標題 The Silent Mothers in Spirited Away and Other Miyazaki Films
3. 学会等名 The 24th Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷口秀子
2. 発表標題 「賢さ」か「冒険」か フェミニズム童話の翻訳をめぐる
3. 学会等名 第20回東アジア日本語・日本文化フォーラム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)
2. 発表標題 The Japanese Translations of Feminist Fairy Tales Written in English
3. 学会等名 Taiwan Children's Literature Research Association 8th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口秀子
2. 発表標題 フェミニズム童話と「アリス」
3. 学会等名 日本ルイス・キャロル協会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)
2. 発表標題 Children's Literature as Remedies for Children: The Child Misfit and the Adult Healer and Mentor in The Witch of the West Is Dead
3. 学会等名 The 23rd Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hideko Taniguchi (谷口秀子)
2. 発表標題 Transition of Environmental Perspectives in Japanese Anime, Seen in Two Versions of Humanoid Monster Bem series (1968-1969, 2006) and Pom Poko (1994) (発表確定)
3. 学会等名 The 26th Biennial Congress of The International Research Society for Children's Literature (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 谷口秀子、大野寿子(編)、野口芳子他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 429
3. 書名 グリム童話と表象文化――モチーフ・ジェンダー・ステレオタイプ――	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<市民向け講演> (1)「おとぎ話と絵本で学ぶジェンダー」,「筑後市男女共同参画推進事業講座」(主催:筑後市男女共同参画推進室),2023年1月。(2)「おとぎ話と絵本で学ぶジェンダー」,「男女共同参画ぶちフェスタ 講演会」(主催:筑紫野市男女共同推進センター),2022年6月。(3)「ヒロインは気立てが良くて控えめで?~おとぎ話と絵本で学ぶジェンダー~」,「久留米市男女平等推進センター図書講座」(主催:久留米市男女平等推進センター),2021年10月。(4)「変化するヒロイン像! 助けを待つお姫さまってもう古い?」,「男女共同参画基礎講座」(主催:糸島市男女共同参画センター),2019年11月。(5)「ディズニー作品に見るヒロインの変遷 ~シンデレラからモアナまで~」,「子育てが変わる! 人生が変わる! “らしさ”の魔法を解く講座」(主催:糸島市男女共同参画センター),2018年2月。
 <市民向け書評> (1)「フレンテみえの絵本『みっち と きりー』」,『ムービング』(北九州市立男女共同参画センター・ムーブ),第98号,p.11,2022年。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------